

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
コンピュータ基礎	パソコンの基礎実習	植村 明生	1 年次後期
講義の目的	今や、情報社会を前提とした社会構成となり、情報を有効に利活用できるか否かで、個人や企業の運命が左右されることさえある。OECD（経済協力開発機構）の国際的な成人力調査（PIAAC）では読解力や数的思考力と並んで、「ICTを活用した問題解決力」が測定対象とされているほどである。この授業では、上記の力を修得するため、ICTプロフィシエンシー検定試験（P 検）のテキストをベースに、実用的なアプリケーションソフトの実習など、現代社会で必要とされる ICT 知識の習得を目的とする。		
到達目標	ICT 知識の修得と「ICTプロフィシエンシー検定試験（P 検）」取得		
講義の内容	現代社会で必要とされる Microsoft Word や Excel の実習や、コンピュータ知識、情報通信ネットワーク、情報モラルとセキュリティ等の現代社会で必要とされる ICT 知識を座学中心に修得する。さらに、ICTプロフィシエンシー検定協会主催の「ICTプロフィシエンシー検定試験（P 検）」取得を目指す。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション（授業概要や運営方法、P 検の概要説明）	
	第 2 講	実技ワープロ（1）文書作成	
	第 3 講	実技ワープロ（2）届出文書（模擬）作成	
	第 4 講	実技表計算（1）簡単な表計算	
	第 5 講	実技表計算（2）条件式	
	第 6 講	実技表計算（3）実用的な計算	
	第 7 講	コンピュータの知識と技術	
	第 8 講	インターネットの知識と技術	
	第 9 講	情報通信ネットワーク（1）インターネットと現代社会	
	第 10 講	情報通信ネットワーク（2）これからの情報通信技術	
	第 11 講	情報モラル	
	第 12 講	情報セキュリティ	
	第 13 講	ICT を活用した問題解決(1)フローチャート、データベース	
	第 14 講	ICT を活用した問題解決(2)情報の取り扱い、問題解決	
	第 15 講	演習問題	
方法指導	基本的に講義計画に沿ったテーマで講義を行う。適宜、講義内容に即した実習課題を提示し、レポートとして回収する。		
授業外学習	資格取得に向けて、講義で学んだ内容はテキスト等で復習し、過去問題を解くことで授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。		
成績評価の方法	「本試験」（P 検 3 級の受験結果あるいは筆記試験結果）：60%、平常点[授業内テスト、レポート（授業外で作成した提出物）]：30%、「平常点」（小テスト）：10% を総合的に判断して評価する。		
ステキ	必要に応じて資料・レジュメを配布する。		
書籍参考	P 検オフィシャル教材「P 検 3 級テキスト」（2017 年版） 事務局発行		
事項特記	施設の都合上、受講定員を 36 名とする。履修希望者が定員を超えた場合、選考を行う。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
コンピュータ基礎	パソコンの基礎実習	小宮 全	1 年次後期
講義の目的	今や、情報社会を前提した社会構成となり、情報を有効に利活用できるか否かで、個人や企業の運命が左右されることさえある。OECD（経済協力開発機構）の国際的な成人力調査（PIAAC）では読解力や数的思考力と並んで、「ICT を活用した問題解決力」が測定対象とされているほどである。この授業では、上記の力を修得するため、ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）のテキストをベースに、実用的なアプリケーションソフトの実習など、現代社会で必要とされる ICT 知識の習得を目的とする。		
到達目標	ICT 知識の修得と「ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）」取得		
講義の内容	現代社会で必要とされる Microsoft Word や Excel の実習や、コンピュータ知識、情報通信ネットワーク、情報モラルとセキュリティ等の現代社会で必要とされる ICT 知識を座学中心に修得する。さらに、ICT プロフィシエンシー検定協会主催の「ICT プロフィシエンシー検定試験（P 検）」取得を目指す。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション（授業概要や運営方法、P 検の概要説明）	
	第 2 講	実技ワープロ（1）文書作成	
	第 3 講	実技ワープロ（2）届出文書（模擬）作成	
	第 4 講	実技表計算（1）簡単な表計算	
	第 5 講	実技表計算（2）条件式	
	第 6 講	実技表計算（3）実用的な計算	
	第 7 講	コンピュータの知識と技術	
	第 8 講	インターネットの知識と技術	
	第 9 講	情報通信ネットワーク（1）インターネットと現代社会	
	第 10 講	情報通信ネットワーク（2）これからの情報通信技術	
	第 11 講	情報モラル	
	第 12 講	情報セキュリティ	
	第 13 講	ICT を活用した問題解決(1)フローチャート、データベース	
	第 14 講	ICT を活用した問題解決(2)情報の取り扱い、問題解決	
	第 15 講	総括	
方法指導	基本的に講義計画に沿ったテーマで講義を行う。適宜、講義内容に即した実習課題を提示し、レポートとして回収する。		
授業外学習	資格取得に向けて、講義で学んだ内容はテキスト等で復習し、過去問題を解くことで授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。		
成績評価方法	「本試験」（P 検 3 級の受験結果あるいは前期試験結果）：60%、「授業内テスト」（授業内で行う試験）及び「レポート」（授業外で作成した提出物）：30%、「平常点」（小テスト）：10% を総合的に判断して評価する。		
ステキ	必要に応じて資料・レジュメを配布する。		
書籍参考	P 検オフィシャル教材「P 検 3 級テキスト」（2017 年版） 事務局発行		
事項記	施設の都合上、受講定員を 36 名とする。履修希望者が定員を超えた場合、選考を行う。		